

令和 4 年 6 月 14 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2021

課題番号：16K02877

研究課題名（和文）アラビア語の会話体と文章体の統合的使用語彙調査と学習者用語彙目録作成

研究課題名（英文）Integrated vocabulary survey and a lexicon of colloquial and written Arabic for learners

研究代表者

長渡 陽一（Nagato, Youichi）

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・研究員

研究者番号：90757519

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：アラビア語の口語と文語の語彙を1つの語彙集に作成した。口語と文語は、実際には、一つの言語生活の中で使われているが、これまで別の辞書が作られてきた。1つの語彙集にしたことで、アラビア語学習の上で、口語でのみ使われる単語、文語でのみ使われる単語、同一単語の口語での意味と文語での意味という使い分けを学ぶことができるようになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

口語と文語の使い分けは、多かれ少なかれ、あらゆる言語社会に存在する。例えば日本語でも、話される言葉と文章を書く時に使われる語彙や文法には違いがあるし、敬語体系の中での使い分けもある。本研究は、このような1つの言語社会での使い分けの様子を調査し、提示する方法を、エジプトのアラビア語社会を例に提案したものである。

研究成果の概要（英文）：The Colloquial words and the Written Arabic words have been created in one lexicon. Although colloquial and written Arabic are actually used in one linguistic life, separate dictionaries have been created so far. By combining them into one lexicon, students can now learn to distinguish between words used only in spoken Arabic, words used only in written Arabic, and the meaning of the same word in spoken Arabic and in written Arabic.

研究分野：言語学

キーワード：ダイグロシア アラビア語 方言

1. 研究開始当初の背景

アラビア語は言文が一致しておらず、家庭や社会生活で会話に使われる会話体と、読み書きや公的発言に使われる文章体とが、基本的には同じ言語でありながら差が大きい。この状態は「ダイグロシア(二層状態)」と呼ばれ、基本的には二層ととらえられているが、すでに Ferguson(1959)が中間的な混合形態の存在に触れており、現在ではおおむね、会話体と文章体の特徴要素の混合割合が変異する連続体ととらえられている(Versteegh2014:244)。近年は、これを基礎に発話の中で特徴要素の出現をとらえ、その心理的、社会言語学的な要因が研究されている(Mazraani1997,AlBatal2002,Bassiouney2009 など)。アラビア語の両層は学習を始めてすぐに直面する、使い分けの問題である。

一方、二層状態の全体像は、連続体という一定のとらえ方以上には明らかになっていない。それは会話体は文字に残らないためにコーパス構築が困難であることとともに、会話体と文章体を厳に区別し、さらに、目指すべきは“正しい”文章体の習得であり、会話体はそれを“崩した”変種に過ぎないとする社会心理的な伝統のためである。アラビア語の辞書は会話体の辞書と文章体の辞書が別々に作られ、統合されていない。このため、両層の間でどのくらい、どの単語が共有され、どれが異なっているか、意味の違いは何かといった情報はまったく収録されていない。Alosh(2005)は、語彙使用の手引書として二層性の問題にも触れてはいるが、中心は文章体であり、依然として、語彙全体の使用実態は明らかでない。

アラビア語教育は、二層的な使用実態を反映した両層の教授法が試みられてはいる(Woidich(1990)や、Younes(2006)など)が数はわずかであり、試行錯誤の段階である。ほとんどが文章体を扱ったものである。日本の教育現場においてもほとんど文章体のみが教えられている。市販の教材も多くは文章体であり、会話体のものは、申請者の長渡(2009)ほか、4点が出版されているにすぎず、会話体の辞書は日本では1冊も出版されていない。

2. 研究の目的

現在では、文章を読むだけでなく、アラブ人と話し文化を理解する能力の需要が高まっている。すなわち会話体と文章体を知り、適切に「使い分け」る能力の養成が必要である。この「使い分け」能力というとらえ方およびその能力評価基準は、申請者が、長渡(2014)で提案している。これを実現させるには、使い分ける要素である両層語彙の統合的な使用実態を明らかにする必要がある。これを基盤として両層の語彙を対照させ、その異同を明示した語彙目録および、コーパスに基づいた統計的なデータによって全体像を明らかにする必要がある。

この研究の目的の第一は、まず両層の語彙使用実態の全体像を明らかにすることである。下に示すコーパスに現れる語彙項目を調査し、把握した使用実態を基盤に、会話体と文章体の語彙を対照させた語彙集を作成する。これによりどの単語が会話体であり文章体か、どのくらい、どの単語が共有されているか、どれが対応するか、意味用法の違いは何かを明らかにする。

3. 研究の方法

対象地域は、会話体辞書や方言資料があり、学習者の関心が最も高いエジプトとする。会話体コーパスは映画のシナリオ、会話体で書かれた出版物から作成し、文章体コーパスは日常に使われる語彙が多く使われていると思われる子ども向けの出版物とした。これらのコーパスから次の

ようにした。

4．研究成果

まず、会話体(エジプト口語)と文章体(文語)、つまり両層の別を明示する方法を整備した。大見出しは語根とし、その中で見出し語を、会話体、文章体の区別なしに立てた。その発音や意味について、会話体(エジプト方言)には⊕を、文章体には⊗として記述した。さらに装丁を整え、内容点検をした上で出版を目指す。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Youichi Nagato	4. 巻 1
2. 論文標題 Arabic loanwords in languages around the Indian Ocean, and what this tells us about the transmission of Arabic words	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Studies in Asian Geolinguistics, Monograph Series No. 4 - Papers from the Fourth International Conference on Asian Geolinguistics	6. 最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長渡陽一	4. 巻 20
2. 論文標題 アラビア語の口語・文語両文体同時提示による「混乱」とは - 学生アンケート調査から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 外国語教育研究	6. 最初と最後の頁 95-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 長渡陽一
2. 発表標題 語境界線 (isogloss) から観察するアラビア語諸方言の様相
3. 学会等名 日本地理言語学会第2回（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長渡陽一
2. 発表標題 マルタ語がアラビア語諸方言と共有している改変、共有していない改変
3. 学会等名 日本地理言語学会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Youichi Nagato
2. 発表標題 Arabic word sharing in Indian ocean languages
3. 学会等名 the Fourth International Conference on Asian Geolinguistics (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長渡陽一
2. 発表標題 アラビア文字の誤用(誤形)分析、類型化と指導法
3. 学会等名 外国語教育学会第22回研究報告大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 長渡陽一
2. 発表標題 アラビア語と日本語のアクセント対照
3. 学会等名 外国語教育学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長渡陽一
2. 発表標題 Accent in Arabic
3. 学会等名 アジア地理言語学プロジェクト第1回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長渡陽一
2. 発表標題 "It rains" in Arabic
3. 学会等名 アジア地理言語学プロジェクト第2回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 長渡陽一
2. 発表標題 アラビア語エジプト方言の疑問詞の語順について
3. 学会等名 日本言語学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 長渡陽一
2. 発表標題 アラビア語の会話体と文章体のニーズと両文体同時提示への学生の感想 - アンケート調査報告 -
3. 学会等名 外国語教育学会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 長渡 陽一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ベレ出版	5. 総ページ数 176
3. 書名 はじめてみようアラビア語 [音声DL付]	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------